黒潮

和歌山県看護協会 会報

第141号
平成29年10月発行

CONTENTS

- 地区支部だより …… 2～3
- まちの保健室 …… 3
- ふれあい看護体験 …… 4～5
- 専門・認定看護師のコーナー（トピックス 2017）…… 6～7
- 地域連携のコーナー …… 8
- 訪問看護ステーションだより … 8
- 医療安全数珠つなぎ …… 9
- リレーエッセイ 友達の輪 …… 9
- 男の時短料理 …… 9
- 施設だより ……10
- 「日本看護協会全国准看護師制度担当役員会に出席して」……11
- ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップに参加して…11
- 和歌山県看護協会の動き ……11
- 和歌山県看護協会のロゴマーク …12
- 平成 29 年度 第 2 回 潜在看護職復職支援研修のご案内 …12
- プレゼント ……12

表紙写真提供／広報委員

Wakayama Nursing Association

http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp

発行所　公益社団法人　和歌山県看護協会
〒642-0017　海南市南赤坂17　TEL.073-483-1005　FAX.073-483-1266
発行人　古川　紀子

地区支部だより

伊都地区支部

支部長　西山 登志子

平成 29 年度地区支部研修会を 7 月 5 日（土）に開催しました。

認知症看護認定看護師の岸田悦子先生による「ユマニチュードケアを看護実践に活かす」と題して講演をしていただきました。64 名（看護師、看護補助者）の参加者より、研修内容が「理解できた」「自分の仕事に活かせる」と好評でした。

11 月 26 日は地域イベントに多職種で参加し、「まちの保健室」活動を通して、地域住民との交流の機会に努めていきます。

那賀地区支部

支部長　大久保 まさ子

平成 29 年度地区支部集会及び研修会を 6 月 24 日（土）に開催しました。訪問看護認定看護師の平岡桃重先生による「在宅支援について」の研修に、79 名の参加がありました。「人によって最善が違う」と言う言葉に、生活者としての視点を再認識できたようでした。10 月には、対策必見の「認知症について」を予定しています。

今後も、各関係機関･職種の方々と、顔の見える交流･情報共有を心がけ、看護の質向上に努めていきたいと思います。

和歌山地区支部

支部長　廣瀬　朱実

6 月 4 日（土）地区支部集会ならびに第 1 回研修会を済生会和歌山病院で開催しました。研修会では「終末期の医療・看護の連携～その人らしく生きるためのチームでのかかわり～」というテーマで、MSW、訪問看護師、往診担当看護師による講演を行いました。

同じ事例を通して、医療・看護の連携を中心に発表され、その時々の患者や家族の思いを知ることができ好評でした。現在、9 月 16 日「まちの保健室」と 10 月 28 日の第 2 回研修会を企画中です。

海南・海草地区支部

支部長　中野　美枝

第1回地区支部研修を 6 月 17 日（土）に開催しました。テーマは「がん診療におけるアドバンスケアプランニング」、講師は神戸大学医学部付属病院乳腺内分泌外科科長の谷野裕一先生をお招きしました。96 名の参加があり大好評でした。

講演の中で「外来には看護が必要な人がいます。患者に関心を寄せる。ケアをとおして患者を知る。患者が自分で考えられるように対話を重ねる。医師の視点、看護の視点を共有すること。看護と医療は並列である。」と述べられ、会員の皆の心に響きました。今後も会員の要望にあった研修を企画したいと考えています。

有田地区支部

支部長　西原　均

平成 29 年 7 月 8 日（土）、有田地区支部集会及び研修会を開催しました。研修会は「認知症者を支えるためにできることを考える」と題して、和歌山県立医科大学神経精神医学教室の山田信一先生に講演いただき、84 名の参加がありました。認知症患者の対応に関して、病院や施設でいろいろな課題を抱えており、参加者の関心も高く有意義な研修会となりました。

11 月 5 日（日）には老人看護月間行事として、広川町健康祭りに参加を予定しています。

日高地区支部

支部長　空山　直子

7 月 2 日（土）に和歌山病院に於いて、平成 29 年度地区支部報告会ならびに研修会を開催しました。会員からの希望が多かった「認知症の病態・治療　～認知症を支えるためにできることを考える～」をテーマに、和歌山県立医科大学神経精神医学教室の山田信一先生にご講演いただきました。53 名の参加があり、認知症の病態・治療だけでなく、具体的な関わり方や医療モデルから社会モデルへの転換等、非常に興味深い内容で好評でした。

田辺地区支部

支部長　山根 八栄子

平成 29 年 7 月1日（土）に南和歌山医療センターに於いて、報告会と第1回研修会を開催しました。講演会は、メンタルヘルス講演家の下口雄山先生による「プラス思考への心理学 ～笑顔自律訓練法で心も身体もリラックス～」。心と身体をほぐす自律訓練法について学び、参加者は 55 名で、82%が「今後の心のケアに活かせる」と講評で、有意義な研修会でした。第2回研修会は 10 月 14 日（土）に予定しており、準備を進めています。

新宮・串本地区支部

支部長　貴志　福子

5 月 13 日(土) イオン新宮店にて「1 日まちの保健室」を開催しました。一般参加者は 150 名で、血圧・体脂肪測定、健康相談を行いました。

8 月 5 日(土) には第 1 回研修会を開催しました。「認知症ケアの最前線」のテーマで、畿央大学老年看護学領域教授の山崎尚美先生にご講義いただき、46 名の参加がありました。本人主体（パーソンセンタードケア）の理念のもと多角的にアセスメントし、ケアの質を向上させることを改めて考える機会となりました。

和歌山県立向陽高等学校文化祭で「健康チェック」＆「白衣体験」

「まちの保健室」運営委員会　　橋爪　千晶

9 月 11 日（月）　向陽高等学校文化祭にて「まちの保健室」が開催され、高校生や保護者の方、教員の方など 121 名が参加されました。

白衣体験では、高校生の白衣姿が「初々しくて」癒されました。健康チェックでは、「自分の健康状態が知れてよかった」「運動や食生活を見直す機会になった」「以前より骨密度が改善していてほっとした」などの御意見を頂きました。

まちの保健室をきっかけに、生活習慣の見直しや健康維持へのお手伝いが出来れば嬉しく思います。

ふれあい 看護体験

橋本市民病院

参加者の感想

まず初めに、助産師の方に赤ちゃんの入浴やエコーの様子を学びました。私のいとこが数年前に産まれて、抱いたりしていましたが、やはり病院となると、多勢の赤ちゃんの命をたくされているということで、緊張感がありました。しかし、お母さんが不安にならないように接しているのを見て、看護師の方は本当にすごいと思いました。

また、忙しい中で私達に色々なことを教えてくださって、本当に感謝しています。この体験からますます看護師になる思いが強まったので、これから看護大学に入るためにがんばります。

（橋本高校・山本　心緒）

施設側の感想

今年のふれあい看護体験では、高齢者疑似体験や避難所生活体験を取り入れました。“相手の立場に立って考える事”を学んだと同時に、“看護師になりたいという意志が固まった”という声が聴かれました。

（曽和　倫代）

公立那賀病院

参加者の感想

ふれあい看護体験に参加して、看護師の仕事は中途半端な気持ちではできないと改めて感じました。私は今日実際に赤ちゃんを抱っこして、ミルクをあげるという体験をしたが、その時にたくさん注意しなければならないことがあり、自然と背すじが伸びて命の重さ・大切さを知ることができました。また、今日のふれあい看護体験を通して、私にはコミュニケーション能力が足りていないことを知りました。看護師さんは常に患者さんとの会話を絶やさずに笑顔で接していたけれど、私は自分がしなければいけないことで精いっぱいでした。

私はこれまで看護師になることに興味を持っていたが、看護師・助産師さんの実際の職場の風景を見て、自分の夢への関心がさらに深まりました。

（向陽高校・田村　優佳）

施設側の感想

ありのままの現場を体験していただきました。忙しい現場であり彼女たちの夢を壊してしまうのではと心配しましたが、終了後、進学への強い決意や私たちへのねぎらいの言葉を聴くことができ安心しました。

（藤本　美幸）

済生会和歌山病院

参加者の感想

私は、今日一日参加させていただいて一番に感じたことは、看護師さんと患者さんのかかわり方でした。

あいさつをしてまわったり、「リハビリどうやった?」と言うような会話をしていて私は雰囲気のよさを感じました。一人一人を大切にしている感じがすごくよかったです。

看護師さん達みなさんもよい雰囲気で笑顔がとてもすてきな感じがしました。食事や傷をみたりだとかお世話をするのは大変そうだけどとてもやりがいのある仕事に見えました。私はまだ迷っていますが、自分ももっと頑張ろうと今日の一日ですごく感じました。

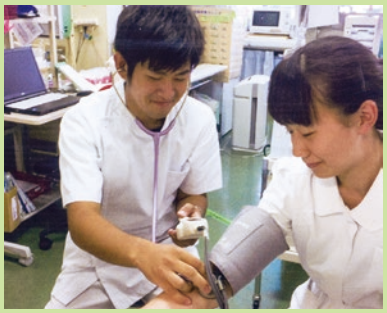
（和歌山工業高校・山﨑　彩華）

施設側の感想

血圧測定や車いすの体験をしてもらいました。聴診器で血圧が測定できたときの笑顔がとてもかわいらしかったです。

学生さんから病院の特徴や最新治療について質問があったときは、正直びっくりしましたが、将来が楽しみで頼もしく感じました。（福壽　和美）

西和歌山病院



参加者の感想

看護師はもっとあわただしく働いていると思っていたけど、私が体験させてもらった病棟は思っていたよりもゆったりとしている感じがした。入院している患者さんがほとんど90以上の人たちでもっと若い人も居ると思っていたから驚いた。患者さんの手と足を洗わせてもらったことは初めてだったし、やり方があっているのか不安だったけど洗っている時や洗い終わった後に私の方に向いて、「ありがとう」「気持ちよかった」と言ってもらえてすごくうれしかったし、いい仕事だなあと感じた。のどにたんがつまってうまく出せない人がのどに穴を開けているのを見てすごく衝撃的だったし、少し悲しくなった。リハビリをしていた部屋は病室より活気があって楽しかった。働いている人も気さくな人ばかりで看護師になりたいと強く思える一日だった。（星林高校・牛島　紅羽）

施設側の感想

今回、ふれあい看護体験の担当を行いました。ケアを通して学生さんが笑顔でふれあう姿を見て、私自身温かい気持ちになりました。学生さんが看護体験に参加し、素晴らしい看護師になりたいという思いを強めてくれ良かったです。（塩路　陽子）

玉置病院

参加者の感想

看護体験に参加したのは初めてだったので、始めのうちは正直不安でした。でも、看護師さんたちがとても優しくフレンドリーに接してくださったので、緊張はだんだんなくなっていきました。私は、病院にはほとんど入ったことがなかったので、患者さんの部屋を回っていくのはとても勉強になりました。患者さんもあたたかい態度で受け入れてくださり、嬉しかったです。車いすとストレッチャーに乗る体験も印象に残りました。いつもよりも視点が低くなり、少しゆれただけでも不安になりました。患者さんを乗せた時に気をつけなければいけないなと思いました。看護師さんは、患者さん1人1人に向き合い、その人に合わせて話をすることが大切だと分かりました。

玉置病院の看護師さんは、皆にこやかで優しい人たちでした。私はまだ進路がはっきりと決まってはいませんが、もし看護師になったらこんな病院で働きたいと思いました。今日は1日お世話になりました。本当にありがとうございました！（田辺高校・上野　智菜）

施設側の感想

最初は二人とも緊張して表情も硬かったですが、一緒に体験するうちに笑顔が見られ、最終カンファレンスでは、将来は看護の仕事がしたいと話してくれました。

初々しい学生さんと関われ、刺激となり楽しかったです。（坂井　香織）

くしもと町立病院

参加者の感想

看護体験をさせていただく前は、「看護って大変な仕事」「頭がいる」「汚いこともする」などの意見を聞いていたので、色々と大変なんだろうなとしか思っていませんでしたが、実際に体験させていただくと、看護をする大変さはもちろんですが、人の役にたてることの嬉しさ、「おおきにね」「最高に気持ちええわ」という患者さんの言葉をもらうことの嬉しさを学びました。お世話してくださった一人の看護師さんは、「大事なことは、まず患者さんを知ること。この人はどんな人で、なにができたか、どんな病気をもっているのか、それで何ができなくなったのか。それを知らないと」と教えてくれました。ある介護士さんは「とにかくお話しすることが大事」と教えてくれました。助産師さんは3600gの赤ちゃんと3400gの人形の赤ちゃんを抱っこさせてくれて、赤ちゃんの方が重いはずなのに人形の方が重く感じるのは命があるからだよ、と教えてくれました。今日一日で色んな体験をさせていただいて、本当によかったなと思いました。今日のことを忘れず看護師への道を進んでいきたいと思います。ありがとうございました。（串本古座高校・伊達　麻里絵）

施設側の感想

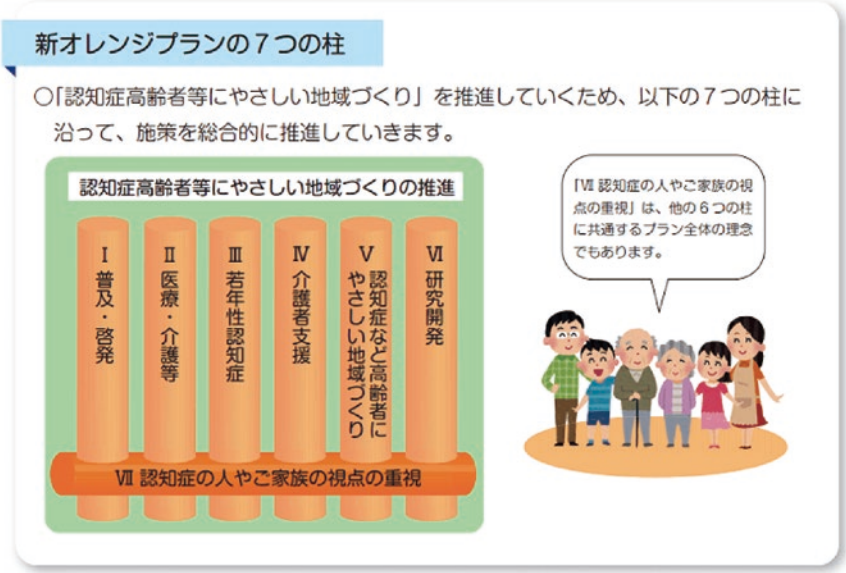
看護は大変な仕事という印象があったようですが、体験後には、看護はやりがいのある仕事だと感じてもらえたようでした。

私たちの言葉から感じ取ってもらえたものもあったようで、嬉しく思いました。（小川　紀子）

認知症ケア　シリーズ②

独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター
認知症看護認定看護師　髙野　誠

わが国は超高齢社会に突入し、昨年度（平成 28 年度）の高齢化率は 27%を超えています。なお和歌山県の高齢化率は 30%を超えており、すでに国が懸念している 2025 年問題の高齢化率の数値に達していることになります。和歌山県における高齢化率は今後も上昇することが予測され 2025 年には 32% を超えると予測されています。



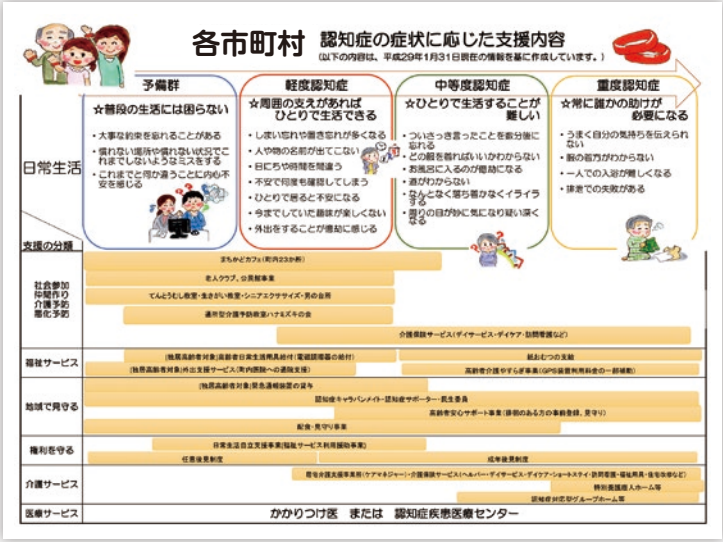
そんな時代を背景に厚生労働省は、2015 年認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を発表しています。認知症高齢者等にやさしい地域づくりを推進していくため、７つの柱に沿って施策を総合的に推進していくことを策定し、なかでも認知症の人やその家族の視点の重視を訴えています。

出典：厚生労働省
認知症施策推進総合戦略
（新オレンジプラン）

認知症支援ガイドブック（和歌山県紀南圏域版）

認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていけるように、また、認知症の正しい知識の普及や家庭支援などの対策の一環として「認知症支援ガイドブック」を作成しました。

「認知症支援ガイドブック」は南和歌山医療センターホームページよりダウンロードして使用いただけます。



さらに、紀南地域各市町村で実施されている「認知症の症状に応じた支援内容」を各地域包括支援センターで作成していただきました。（認知症ケアパス）

私の所属する急性期病院は、和歌山県の指定を受け、認知症疾患医療センターとして地域に向けての活動を行っています。昨年度は近隣の地域包括支援センターとともに協議を重ね各市町村で活用できる認知症支援ガイドブックの作成を行いました。ガイドブックでは認知症の概要から対応方法、各市町村の認知症ケアパスを紹介し「認知症の人の状態に応じた適切なサービス提供の流れ」がご覧いただけるようになっています。

認知症ケアパスとは…

認知症の人の生活機能障害の進行にあわせて、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受けることができるのか、具体的な機関名やケア内容等を、あらかじめ、認知症の人とその家族に提示するものとされています。

これにより、地域住民たちは、自分やご家族、近所の方が認知症になった場合に、どこでどういったサービスを受けることができるのかの具体的なイメージを持つことができるようになります。

また、「自分だったらどういうサービスを受けたいか」「自分の親だったらどういう生活を送らせてあげたいか」など、事前にシミュレーションをすることができるようになります。

厚生労働省　認知症ケアパスの手引き抜粋

事例紹介　認知症を有する方の声に耳を傾けて ～もつれた紐をときほどく～

今回、パーソン・センタード・ケアの教えにもある「認知症をもつ人を一人の“人”として尊重し、その人の視点や立場に立って理解し、ケアを行おうとする認知症ケア」を実践していくなかで関わった１事例について紹介します。

80 歳代の男性、A さんは過去にアルツハイマー型認知症の診断を受けていました。妻と二人暮らしで、隣には娘夫婦が住み娘のサポートを受けながら生活されていました。そんなある日、頭部打撲による慢性硬膜下血種をきたした為入院となりました。入院後手術が行われ病状は改善しましたが、術後より帰宅願望を呈し病棟の看護スタッフは対応に苦渋していました。病棟の看護スタッフは病院にいることを説得するのではなく基本に忠実に「なぜ帰りたいのか」を尋ねること、帰宅願望への注意をそらすかかわりを実践していました。しかし、なかなか A さんの帰宅に対する欲求が治まることはありませんでした。

一般的に帰宅願望は、記憶障害や見当識障害が原因のため帰りたい理由に耳を傾け対応することが望まれるのですが、A さんは理由を尋ねても「とにかく帰らしてくれ」「そこへちょっと帰らしてくれ」を繰り返すだけでした。

退院前訪問を行ったことで自宅環境を把握していた私は、病院から十数キロある自宅の場所を「そこへちょっと」と繰り返す A さんの言葉に違和感を覚えながらも、理由がわからないままに気分転換のための散歩を提案しました。すると外の景色を見た A さんの言動が一変しました。「もう部屋で休むわ。部屋につれていって」というのでした。A さんは今いる病院の場所を自宅の数百メートルの場所にある病院と勘違いをしていたのでした。かたくなに帰ろうとする A さんと、かたくなに帰ることを了承しない看護スタッフのもつれた紐が一瞬にしてほどけた瞬間でした。

認知症ケアにおいて認知症を有する方の言葉に耳を傾けることは基本です。「認知症だから帰宅願望がでる」「認知症だから何を言っても無駄」などといった先入観は、認知症を有する方の声を聞こえなくしてしまいます。たとえ、認知症状の進行によって言語的コミュニケーションが障害されようとも、認知症を有する方の言葉に耳を傾けること、その視点や、感じている世界を知ろうとする姿勢が、もつれた紐をときほどく糸口になるのだと思います。

情報収集シート　氏名（　　）　年　月　日

出身地	生まれたのは（　　）　育ったのは（　　）
職業、仕事の内容	
家での役割	
もともとの性格	
趣味	
過去の楽しかったこと	
日々の習慣	
なじみのものや道具	
得意なこと・苦手なこと	
お話したり接したりするうえでのコツ	
その他	

南和歌山医療センターでは、昨年の看護研究で認知症情報収集シートの作成を行い活用をしています。

「愛徳医療福祉センターにおける地域連携について」

重症心身障害児者等在宅医療等連携体制整備事業「海の星」
看護師　南部　悟

社会福祉法人愛徳園　愛徳医療福祉センターでは、障害児者の方々に医療と福祉の支援を目的に施設入所、短期入所、通所、訪問リハビリ、居宅介護サービス、相談事業など様々な事業を展開しています。

地域連携の分野では、平成２７年４月より和歌山県から事業委託を受け、重症心身障害児者等在宅医療等連携体制整備事業として和歌山市、海草（海南市、紀美野町）圏域を担当させていただいています。事業名称を「海の星」としています。

重症心身障害児者の方々が在宅で安心して地域生活が送れるよう医療、福祉、教育に関係する事業所や公共機関が連携できるように体制を整備する事業であります。

主な事業としては、連絡検討会を設置して医療機関、教育機関、福祉サービス機関、行政機関が集まり情報交換を行い、実態把握、調査を実施し連携体制の基盤づくりを行っています。

次に、研修会の開催を行い従事者の在宅医療技術向上とともに、重症心身障害児者支援に対応できる従事者を増やすことを目的に活動しています。訪問看護ステーションや支援学校などでも情報提供や意見交換会等も実施しています。

最後に在宅における重症心身障害児者・家族に対する支援として、相談支援や在宅支援のコーディネートなども行っています。特に医療度の高い方の医療的ケアに関する情報提供やアドバイス等サービス利用に関する支援および、在宅移行に関する退院等を支援しています。

今後も関係機関のご協力のもと、重症心身障害児者の方々への支援に努めていきたいと思っています。

訪問看護ステーションだより

重度障害者への訪問看護

南紀医療福祉センター　訪問看護ステーションすてっぷ
主任看護師　小池　江美子

当事業所は、平成 25 年南紀医療福祉センター内に開設した訪問看護ステーションです。

南紀医療福祉センターは、重度心身障害児者の医療、福祉サービスを中心とした医療型障害児入所施設、療養介護、多機能型事業所等を持つ障害児者複合施設で、当ステーションも障害者への在宅サービスに特化する形でスタートしました。

地域で生活される方々に日常的な体調管理や予防ケア、生活指導・リハビリ等の療養上のケア、医療処置やケア、病状悪化や急変時の緊急対応など、身体的・精神的ケアを提供しています。

特に重度身体障害や重症心身障害児者が多く医療ニーズが高いため、ご利用者様やご家族様の意向を聞き取り、医師や他事業所との連携のもとケア目標を共有し、ご利用者様が安心して生活できるようサポートしていきたいと思います。

医療安全 数珠つなぎ

紀の川病院

看護部長　樺山　勝

当院には、まだ『医療安全管理室』は存在しません。上記写真のプレートは数年前に作成し、これを掲げるために現在『医療安全管理者』の増員やシステム作りに励んでいます。それとともに病院全体に安全文化を根付かせること、部署横断的に意見を交わすことのできる環境作りにも取り組み、なるべく早い段階で『医療安全管理室』を設置し、患者さんにより安全で安心な医療を提供できるよう注力していきたいと考えています。

次回号に紹介させていただく方は
紀南こころの医療センター　松下　昌平 様 です

リレーエッセイ 友達の輪 Vol.58

和歌山県立医科大学附属病院　7 東
吉田　純子

医大に就職し、18 年目になりました。様々な病気と闘っている患者さんたちと接するなかで、看護師として安全、安心な看護を提供することはもちろんですが、患者さんを笑顔にしたいと思い、日々、働いています。術後の患者さんに「笑かすな。腹痛いやろ。」と言われると「よし！」と思います。これからも、患者さんを笑顔に！そしてスタッフも笑顔に！していけるようにがんばっていきたいと思っています。

次回は、
歌山県立こころの医療センター
佐々木 知美さんを
ご紹介いたします。

男の時短料理 第7回 「男の肉じゃが」

国立病院機構　和歌山病院　看護師　林　雄一

材　料（1人前）

- 牛切り落とし肉　300 g
- じゃが芋　2個
- 糸こんにゃく　1袋
- 玉ねぎ　1個
- わけぎ　適量
- サラダ油　大さじ3
- 酒1/2 カップ
- 砂糖　大さじ4
- しょうゆ　大さじ4

作り方

1. 鍋にサラダ油を熱し、牛肉 150 gを広げながら入れ、焼きつけるように炒める。
2. 皮をむいてひと口大に切ったじゃが芋を加え、炒め合わせる。
3. ふたをして中火にし、蒸し焼きにする。途中、何度かふたをあけてじゃが芋をひっくり返す。
4. 牛肉がカリッとなり、じゃが芋の表面から2～3mm くらいまでが透明になってきたらふたを取る。
5. 洗って水気をきった糸こんにゃく、くし形に切った玉ねぎを加える。
6. さらに牛肉 150 gを入れ、酒と砂糖を加える。
7. ふたをして中火で 10 分ほど煮る。
8. じゃが芋に竹串をさしてみて、スッと通るようになったらしょうゆを加える。
9. ふたをしてさらに5分煮、わけぎのざく切りをのせてさらに5分煮る。
10. 鍋の取っ手を持ち、鍋ごとゆすって全体に混ぜ合わせる。

施設だより

白浜はまゆう病院

副院長・看護部長　東　直子

白浜はまゆう病院は、白良浜を一望できるロケーションにあり、予防からリハビリテーション、在宅まで一貫した地域医療を提供する病院です。

当院は、1994 年に当該自治体や住民の大きな期待の中で開設されました。以来、地域住民と「田辺保健医療圏」の医療ニーズに応えるべく、医療機能を充実させてきました。

2013 年新本館にて診療を開始し現在、病床数 258 床、一般病棟 82 床、療養病床群 176 床（回復期リハビリ病棟 48 床・地域包括ケア病棟 28 床・医療療養病棟 50 床・介護療養病棟 50 床）です。更に、「白浜医療・保健・福祉総合センター」「南紀白浜温泉リハビリセンター」「人間ドック・健診センター」「通所リハビリテーションセンター」「訪問看護ステーションたんぽぽ」を併設、法人内診療所と合わせ、地域医療体制の充実に向け取り組んでいます。

2005 年に電子カルテが導入され、2007 年から診療所との「医療情報ネットワーク」により具体的で詳細なデータを直接相互に参照することが可能となり、情報の共有化が図られるようになりました。

また、2001 年から病院機能評価を受審し、5 年ごとの更新を受け質の向上に努めています。看護体制の整備も重要な課題であり、2012 年から取り組んでいる「ワーク・ライフ・バランス」も継続して行っており、離職率の軽減につながっています。

当院の理念は「私たちは、地域に根差した医療機関として、誠実さと思いやりを持って、質の高いサービスを提供し、健康・福祉のレベルの高い地域づくりに努めます。」であり、高齢化に伴い「治す医療」から「治し、支える医療」への転換が求められるなか、当院の目的である地域に寄り添う医療機関としての役割を果たすために、看護部は「よく見・よく聞き・よく考える」を目標に、患者に寄り添う看護の提供に努めていきたいと思います。更に、今まで以上に職種や施設を超えて連携と協力を強め、地域の他機関と協力し、健康と福祉のレベルの高い地域づくりに責任のある役割を果たしていきたいと思います。

東洋羽毛の　無料!!
コーヒーサービス

東洋羽毛では、お世話になっている方々に無料コーヒーサービスを行っております。院内での師長会議・主任会議・ラダー研修会・研究発表会・勉強会等、地域や支部での看護部長会・看護研修会等での休憩時にホッと一息つきませんか？

（片隅にちょっとだけ、企業PRとしてお布団を置かせて頂いております。ご購入にも応じます。）

どんな所でも無料で出張サービスさせて頂きます

東洋羽毛関西販売株式会

フリーコール　0120-88-2104　お気軽に御利用ください。

日本看護協会全国准看護師制度担当役員会議に出席して

准看護師理事　玉置　佳代　（社会医療法人黎明会　介護老人保健施設　和佐の里）

平成29年9月7日(木)日本看護協会JNAホールにて、都道府県看護協会准看護師制度担当役員、准看護師理事、本会准看護師理事、本会役職員、約120名が参加し、准看護師制度に関する全国会議が開催されました。

冒頭の挨拶で、福井トシ子会長が「准看護師制度」については平成27年度より重点的な位置づけとして　1）准看護師制度の停止　2）看護師教育3年制への移行　3）看護協会入会率アップと業務範囲の課題について、現場の声を聞きながら実態を把握する。今後、10月から始まる地区別法人会員会で検討を重ねたい、と話されました。

その後、常任理事　勝又浜子氏より、平成29年度の重点事業として、「准看護師制度の課題解決に向けた取り組み」を掲げ進めている。本事業においては、准看護師養成所の新設阻止並びに看護師養成所への転換促進に加え、「安全な看護提供体制に向けた業務範囲に関する課題への対応」について新たに取り組むこと、具体的には、①名称独占に基づく、各職種の名称の明示の推進 ②准看護師の業務範囲の明確化の2点について取り組み進めていく、と話されました。

続いて、函館市医師会看護専門学校　副校長　田中和子氏、蕨戸田市医師会看護専門学校　副校長　藤田京子氏より、定員割れであるが応募者がある中で現状分析し関係者の同意を得て「准看護師養成所から3年課程へ転換」した経過が報告されました。

午後からは「法令にもとづく看護師と准看護師の業務区分のあり方と資格名称の示し方について」ブロック別討議を行い、近畿地区ブロックでは活発な意見交換のあと　1）名称表示し責任の所在を明らかにする　2）看護管理者が准看教育についての理解を深める、の2点に集約しました。

ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップに参加して

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院
鞠谷　博子

今年度から、ＷＬＢ推進ワークショップに参加しました。看護職のインディクス調査を実施し、看護職の現状を把握する良い機会となりました。アンケート結果から職場の満足感が高いことがわかりました。

しかし、分析の仕方によってはまだまだ沢山の課題が潜んでいるように思います。まずは看護部長である私が「こんな看護部にしたい」を明確にすると共に一つひとつ丁寧に解決に向けて取り組んで行きたいと思います。

医療法人 共栄会 名手病院　看護部長
稲垣　伊津穂

今年度より参加させて頂きました。インデックス調査の結果分析を真摯に受け止め看護部全体でしっかり取り組んでいきたいと思います。

３年間やって良かった！と思えるようにしんどくても楽しむ気持ちで頑張りたいです。

和歌山リハビリテーション病院
神吉　恵美

今年より、離職率の低下、業務改善を中心に取り組みたいと参加させていただきました。

参加病院は、どの病院様も、「良くしたい」との思いが熱く調査データーに向き合いながら課題の抽出をされていたのを目の当たりにし、私たちも心新たに一致団結し、取り組んでいきたいと思いました。

３年後、どう変わっていくのか楽しみです。

和歌山県看護協会の動き

平成29年度 第4回　理事会

開催日時
平成29年8月23日(水)
13：00～16：30

会　　場
看護研修センター 会議室1

協議事項
1）ナース章の推薦について
2）その他
以上　承認

報告事項
1）日本看護協会理事会報告
2）日本看護協会主催会議報告
3）担当理事報告
4）県内関連団体会議参加報告
5）会員数について
6）その他

和歌山県看護協会会員数

平成29年9月27日現在

会員総数	5,582名
名誉会員	1名
保健師	125名
助産師	207名
看護師	5,068名
准看護師	181名

※ 会員システムの変更上、9月中の会費納入者数となっております

公益社団法人 和歌山県看護協会のロゴマークを制作中です。

広報委員会

私たちは、公益社団法人として県民の健康と福祉の向上に寄与するために、県内の医療や福祉の関係機関等や各地区支部と連携し、看護の質の向上、働き続けられる環境づくり、訪問看護等の地域医療の推進など、様々な事業を展開しています。そのような活動の一方で、県民の皆様から「看護協会って何をする団体なの」「どんな人たちがいるの？」との質問を頂くことも多く、当協会の知名度は必ずしも高いとはいえない現状を実感しています。

そこで、和歌山県看護協会を県民はじめ全国の皆様に広く知っていただくために、ロゴマークの制作をすすめています。私たちの理念が込められたロゴマークがあることで、当協会のイメージが世の中に視覚的に伝わりやすくなるほか、会員にとっても専門職としての誇りの醸成や団結力の強化となるロゴマークを制作中です。

平成 29 年度 第 2 回 潜在看護職復職支援研修のご案内

和歌山県ナースセンター

「もう一度、看護職に就業したい」「看護職の現場復帰を応援」

平成 29 年度 第 2 回潜在看護職復職支援研修を開催します。

期間 10 月 24 日㊋、25 日㊌、26 日㊍、27 日㊎ 30 日㊊、31 日㊋
計 6 日間 10:00 ～16:00（部分参加も可能）

内容
10/24 講義「医療・看護の動向」「感染管理」・看護技術演習
10/25 講義「医療安全管理」「救急看護」
10/26・10/27・10/30「臨地実習（病院または訪問看護ステーション）」
10/31 講義「災害看護」、交流会

場所 情報交流センター ビッグ U（田辺市新庄町 3353-1）
協力医療機関、訪問看護ステーション

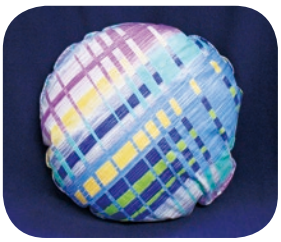
受講料 無料 交通費、昼食代、
看護職賠償責任保険料は自己負担

対象 看護職有資格者

募集定員 20 名程度

【申込先・問い合わせ先】 公益社団法人 和歌山県看護協会 和歌山県ナースセンター
〒 642-0017 和歌山県海南市南赤坂 17 番地 TEL 073-483-1005・FAX 073-483-1266（担当 山本・中川）

第28回 プレゼント！



「足まくら」を 2 名様に！

どちらか 1 つ当たります！

「図 書 券」1,000 円分を 3 名様に！

はがきに ①希望の商品名 ②氏名 ③会員番号 ④郵便番号・住所 ⑤電話番号 ⑥勤務先名 ⑦本紙へのご意見・ご要望を明記の上、11 月 25 日（土）までにお送りください。
（消印有効・1 人 1 通のみ）
抽選の上、当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

宛先 〒 642-0017 海南市南赤坂 17 和歌山県看護協会 「10 月号プレゼント」係

プレゼント応募者の声

◉ 認知症患者が増加し対応に困っている中、ケアについてポイントが記入されており分かりやすいです。シリーズ②…③… 楽しみにしています。